

「男女共同参画社会に関する世論調査」の結果について (夫婦の名字・姓に関する意識など)

令和5年4月10日
内閣府男女共同参画局

「男女共同参画社会に関する世論調査」の概要

- 目的：男女共同参画社会に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする
- 調査実施主体：内閣府政府広報室（設問作成は男女共同参画局）
- 調査期間：令和4年11月24日～令和5年1月1日
- 調査対象：全国18歳以上の日本国籍を有する者 5,000人
- 有効回収数：2,847人（有効回収率56.9%）
- 調査方法：郵送法（前回調査までは個別面接聴取法）
⇒調査方法の変更に伴い、質問文や選択肢が同じでも、過去の調査結果との比較はできない（過去の調査結果は「参考値」の扱い）
- 調査項目：
 - 1 男女共同参画社会に関する意識について
 - 2 家庭生活等に関する意識について
 - 3 夫婦の名字・姓に関する意識について
 - 4 女性に対する暴力等に関する意識について
 - 5 男女共同参画社会に関する行政への要望について
- 平成4年以降、数年おきに同様の調査を実施（前回調査は令和元年）

「男女共同参画社会に関する世論調査」の回収結果と回収数の年齢別割合

- ・世論調査の年齢別・性別の標本数は、無作為抽出により、実際の人口の年齢階級別構成比と乖離しないようになる。
- ・また、回収率は、18～29歳で4割にとどまる一方、40歳代、50歳代、70歳以上では50%台後半、60歳代では約70%に上る。
- ・その結果、年齢別の回収数が合計に占める割合をみると、60歳代以上が46.5%を占めている。
- ・世論調査の結果については、総数だけではなく、年齢別・性別などの内訳を丁寧に分析することが重要。

<年齢別回収結果>

	標本数 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)
18～19歳	87	40	46.0
20～29歳	557	232	41.7
30～39歳	595	307	51.6
40～49歳	778	443	56.9
50～59歳	836	501	59.9
60～69歳	727	503	69.2
70歳以上	1,420	821	57.8
合計	5,000	2,847	56.9

<回収数の年齢別割合>

	回収数 (人)	回収数の合計に 占める割合 (%)
18～19歳	40	1.4
20～29歳	232	8.1
30～39歳	307	10.8
40～49歳	443	15.6
50～59歳	501	17.6
60～69歳	503	17.7
70歳以上	821	28.8
合計	2,847	100.0

20.3%

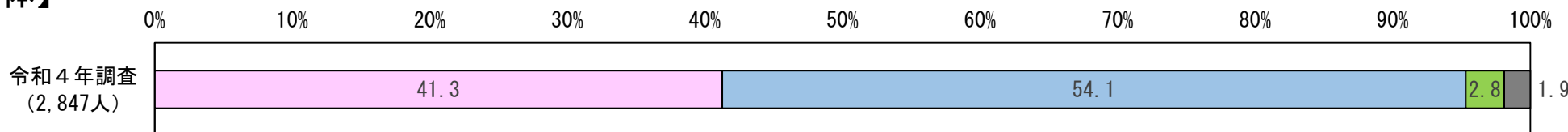
46.5%

1. 名字・姓に関する制度の在り方をめぐる
議論に対する意識
(問11)

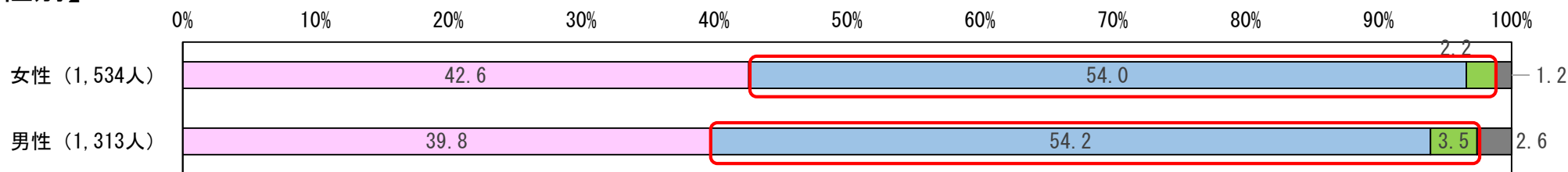
名字・姓に関する制度の在り方をめぐる議論に対する意識（問11）新規問

- ・夫婦の名字・姓に関する制度をめぐる議論を、自分または自分の周囲の人にとって身近なこととして「考えたことがない」、「議論があることを知らない」と回答した割合の合計は、男女ともに5割以上。
- ・年齢別にみると、18～29歳は「議論があることを知らない」と回答する割合が他の年代よりやや高い。また、議論を「考えたことがある」と回答する割合は30歳代が最も高く、5割を超える。

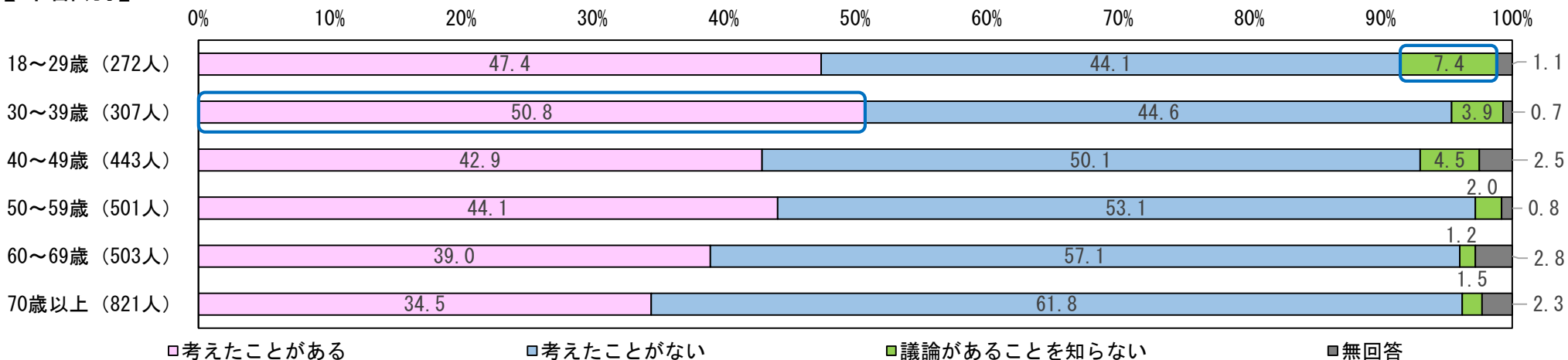
【全体】



【性別】



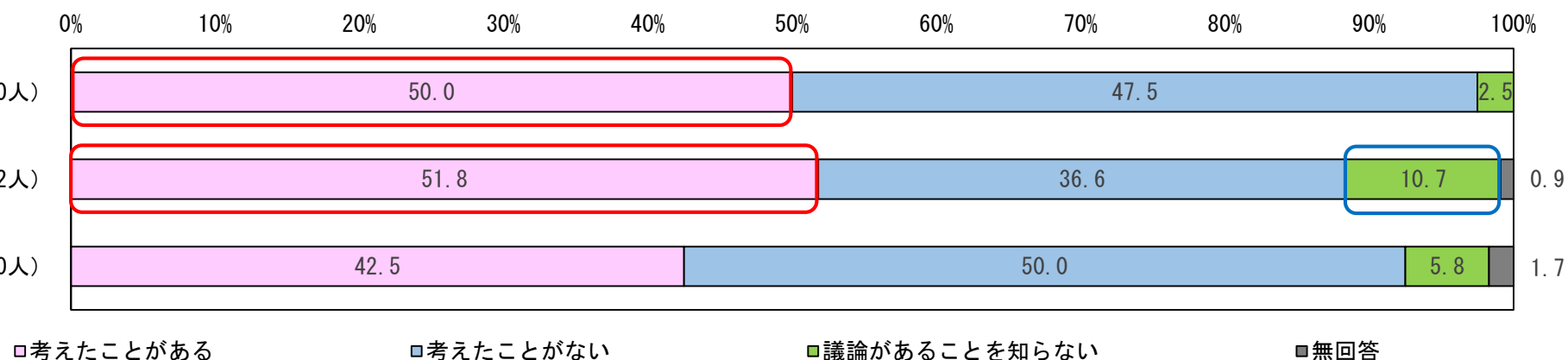
【年齢別】



名字・姓に関する制度の在り方をめぐる議論に対する意識（問11） 新規問

- ・ 18～29歳の結果をさらに細かい年齢区分で見ると、18～19歳と20～24歳で「考えたことがある」と回答した割合が5割を超える。
- ・ 「議論があることを知らない」と回答した割合が最も高いのは、20～24歳。

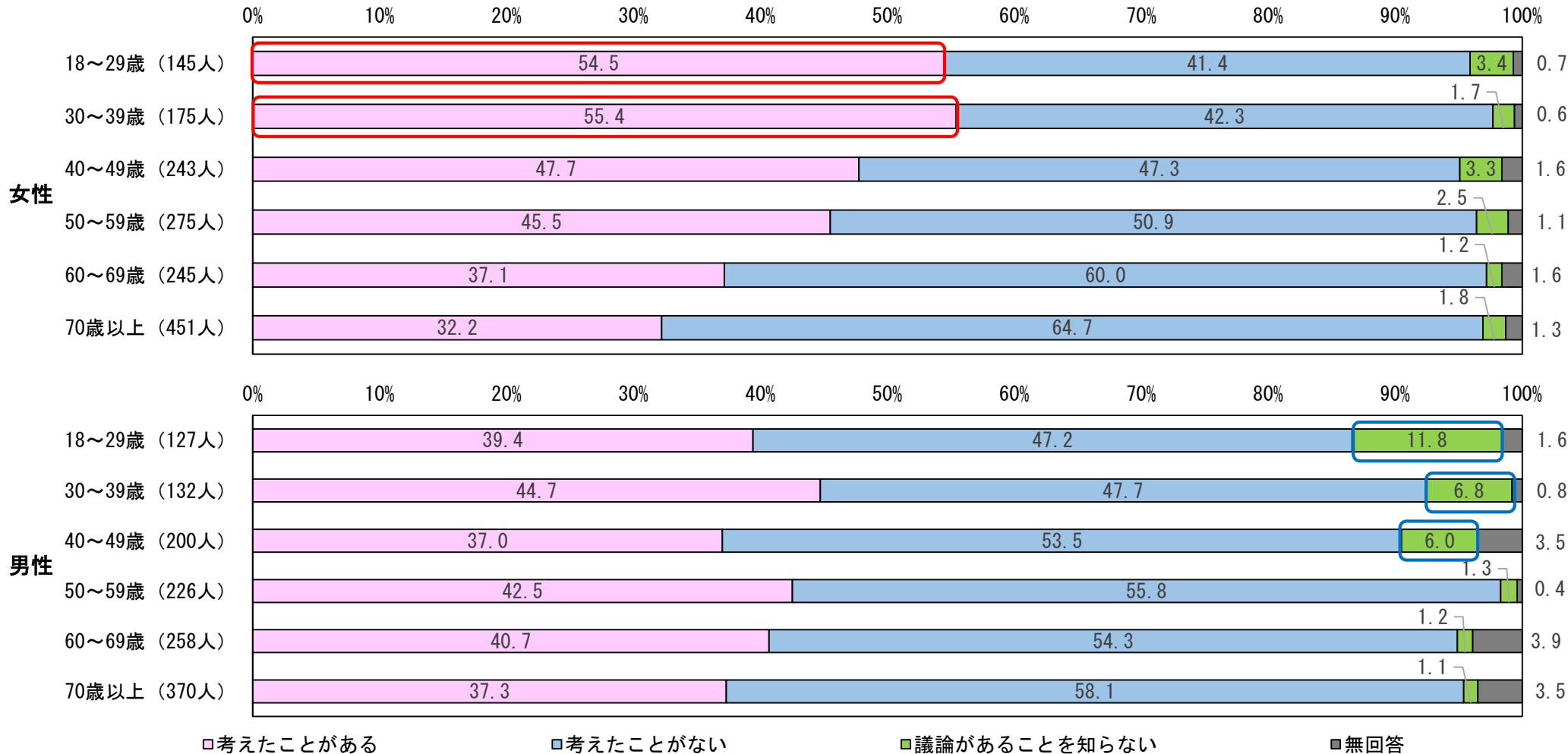
【年齢別（18～29歳）】



名字・姓に関する制度の在り方をめぐる議論に対する意識（問11） 新規問

- ・女性では、30歳代以下で議論を「考えたことがある」と回答する割合が5割を超える。
- ・男性では、議論を「考えたことがある」と回答する割合は、年代別で大きな変化はない。40歳代以下（特に18～29歳）の男性は、「議論があることを知らない」と回答する割合が高い傾向。

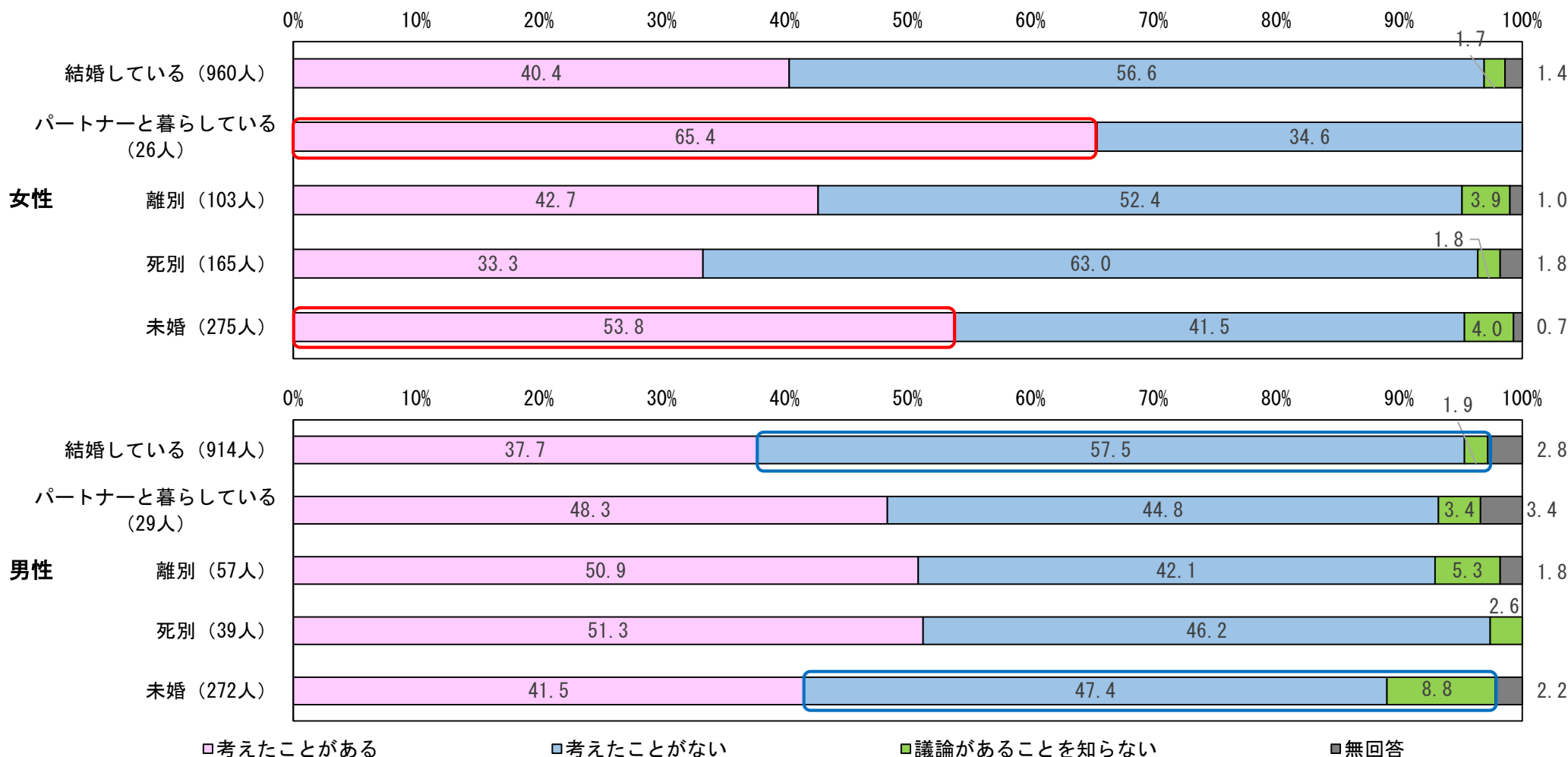
【性別×年齢別】



名字・姓に関する制度の在り方をめぐる議論に対する意識（問11） 新規問

- ・ 女性では、パートナーと暮らしている人と未婚者で、「考えたことがある」と回答する割合が高い。
- ・ 男性では、「考えたことがない」と「議論があることを知らない」と回答する割合の合計が、既婚者や未婚者で高く、5割を超える（特に未婚者では、「議論があることを知らない」と回答する割合が他より高い）。

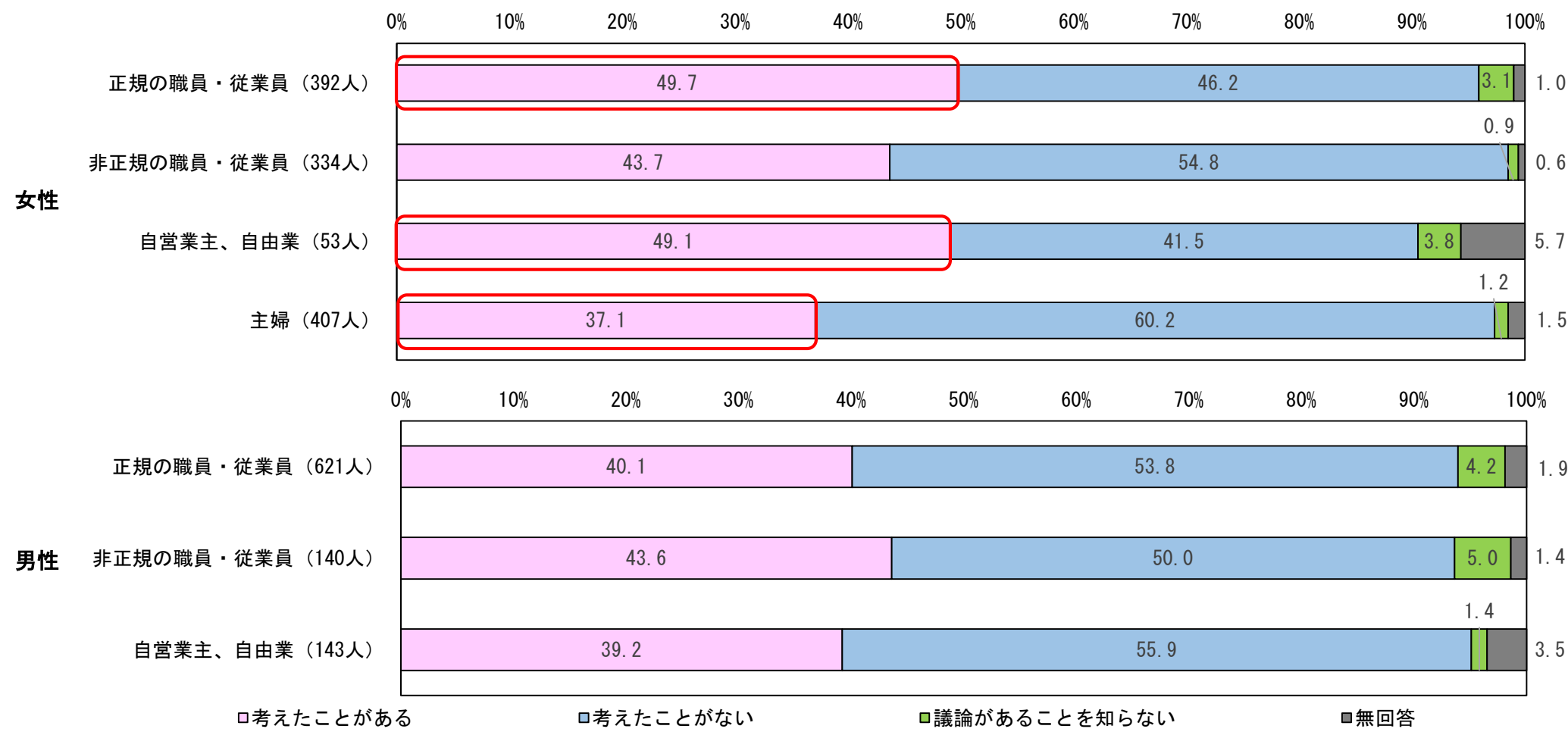
【性別×配偶関係別】



名字・姓に関する制度の在り方をめぐる議論に対する意識（問11） **新規問**

- ・女性では、「考えたことがある」の回答割合は、正規雇用者や自営業主・自由業で高く、主婦で低い。
- ・男性については、雇用形態で回答傾向に大きな違いは見られない。

【性別×従業上の地位別】



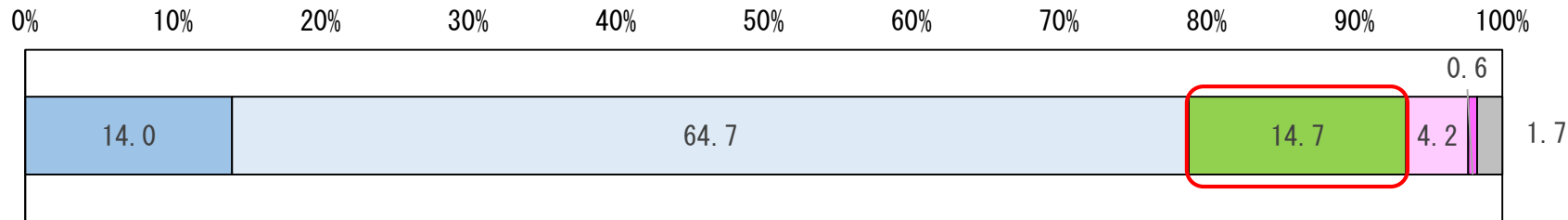
(備考) 1. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和4年11月調査)より作成。

2. 社会全体における男女の地位の平等感について (問2)

社会全体における男女の地位の平等感（問2）

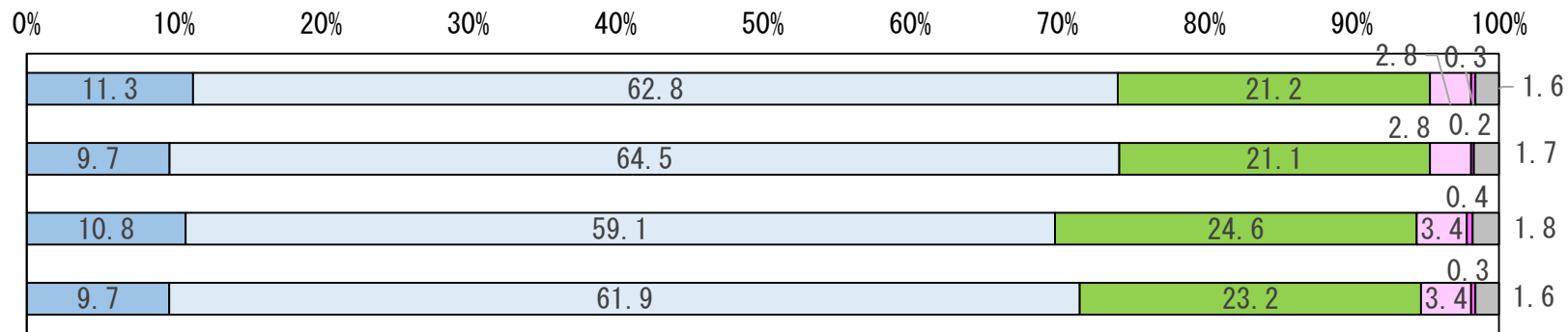
・社会全体でみた男女の地位が「平等」と思うと回答した割合は14.7%。

【全体（今回調査）】 ※郵送法



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答

【参考（過去調査）】 ※個別面接聴取法



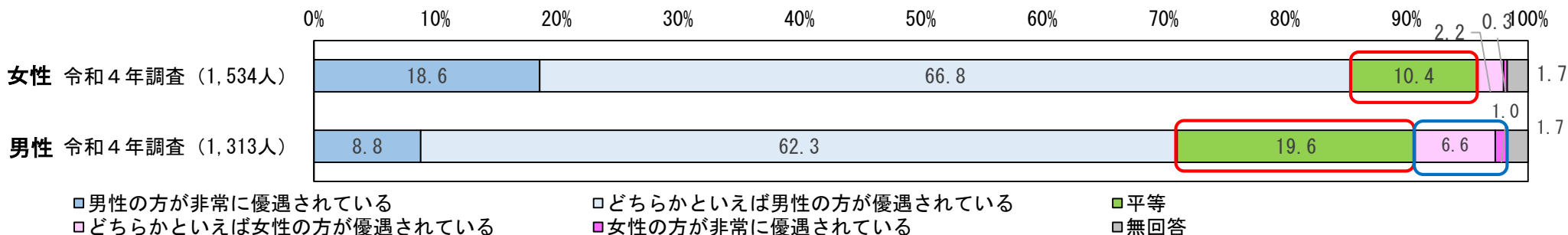
- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- 分からない

(備考) 1. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（平成21年10月、平成24年10月、平成28年9月、令和元年9月、令和4年11月調査）より作成。
 2. 平成28年以降の調査は、18歳以上の回答者による結果。平成24年以前の調査は、20歳以上の回答者による結果。
 3. 今回調査から、調査方法が個別面接聴取法から郵送法に変更となったため、質問文や選択肢が同じでも、過去の調査結果との比較はできない（過去の結果は「参考値」の扱い）。

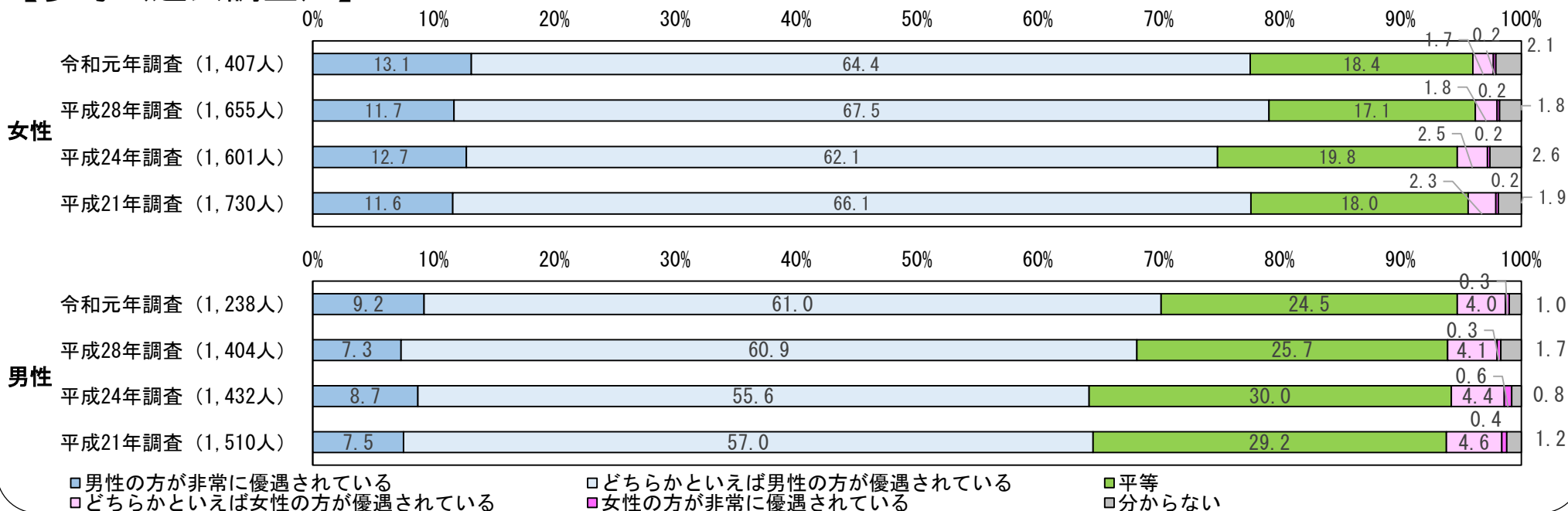
社会全体における男女の地位の平等感（問2）

- ・「平等」だと思ふと回答した割合は、女性が10.4%、男性が19.6%で、女性の方が低い。
- ・男性では、7.6%が「女性の方が優遇されている」と思ふと回答。

【性別（今回調査）】 ※郵送法



【参考（過去調査）】 ※個別面接聴取法

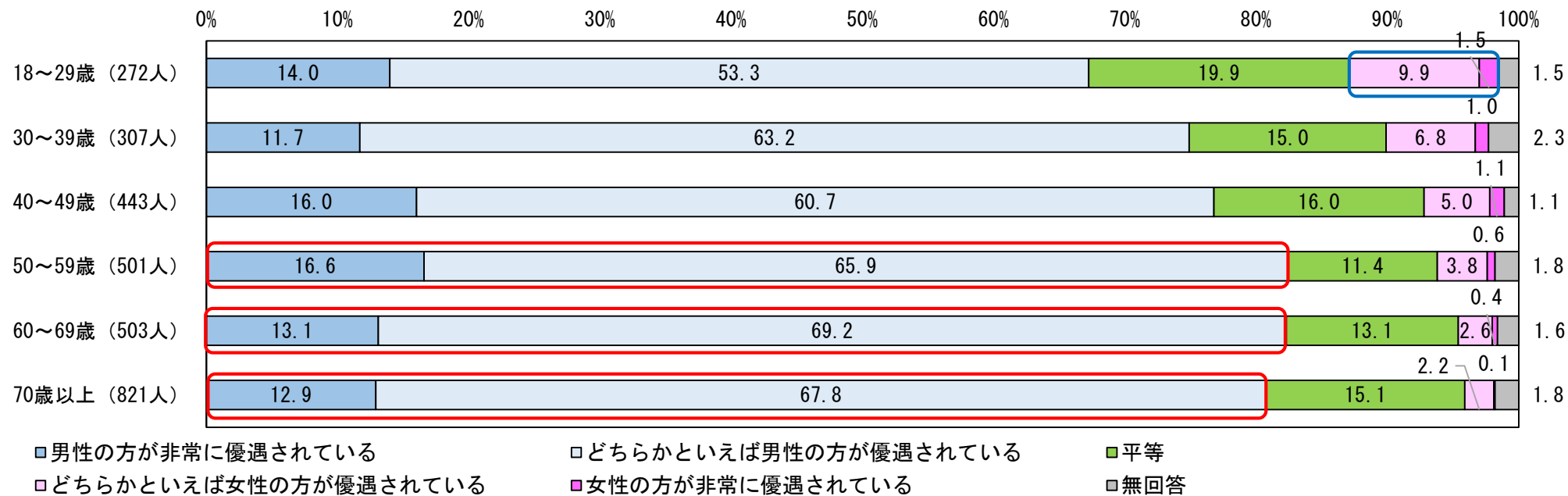


- (備考) 1. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（平成21年10月、平成24年10月、平成28年9月、令和元年9月、令和4年11月調査）より作成。
 2. 平成28年以降の調査は、18歳以上の回答者による結果。平成24年以前の調査は、20歳以上の回答者による結果。
 3. 今回調査から、調査方法が個別面接聴取法から郵送法に変更となったため、質問文や選択肢が同じでも、過去の調査結果との比較はできない（過去の結果は「参考値」）。

社会全体における男女の地位の平等感（問2）

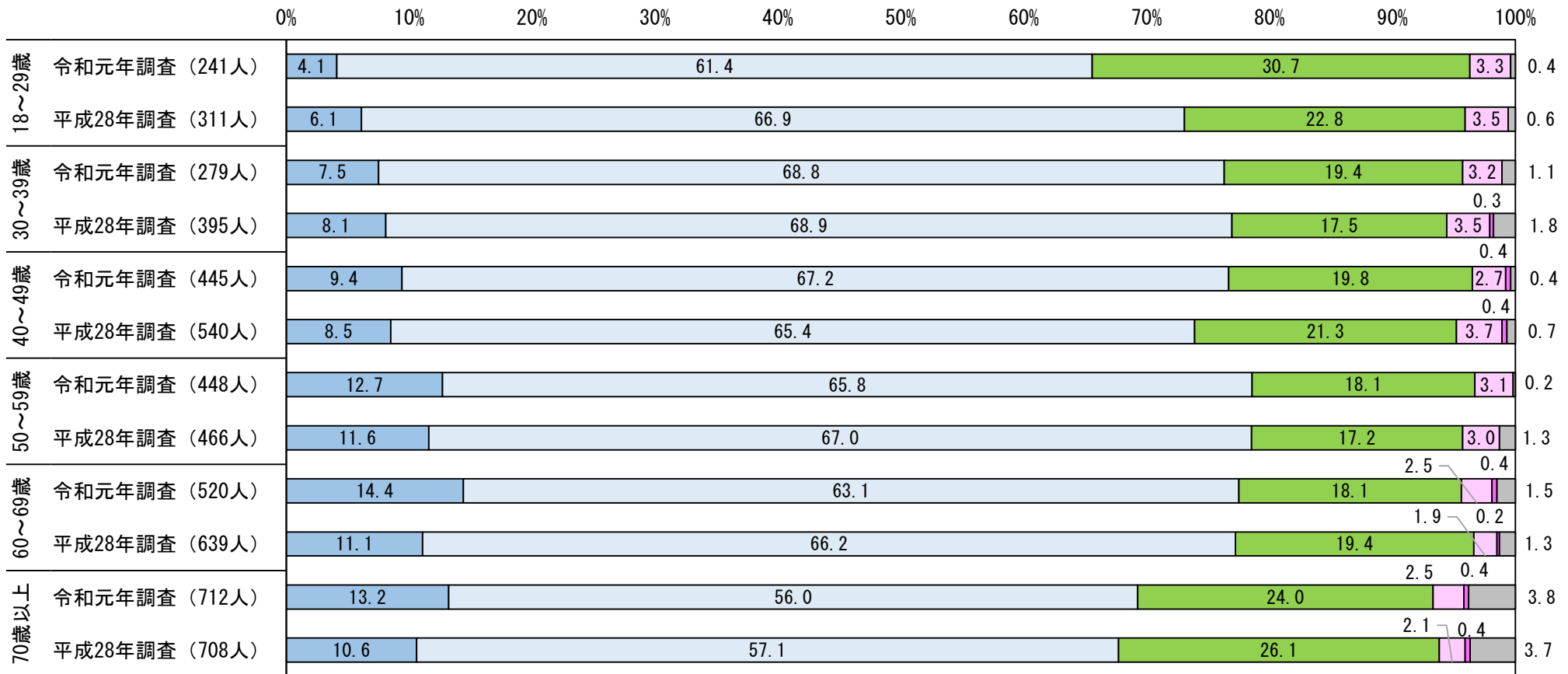
- ・年齢別にみると、「男性の方が優遇されている」と回答する割合は50歳代以上で高く、8割を超える。他方、「女性の方が優遇されている」と回答する割合は、年代が低くなるほど高くなり、18～29歳では1割を超える。

【年齢別（今回調査）】 ※郵送法



社会全体における男女の地位の平等感（問2）

【参考（過去調査）】 ※個別面接聴取法

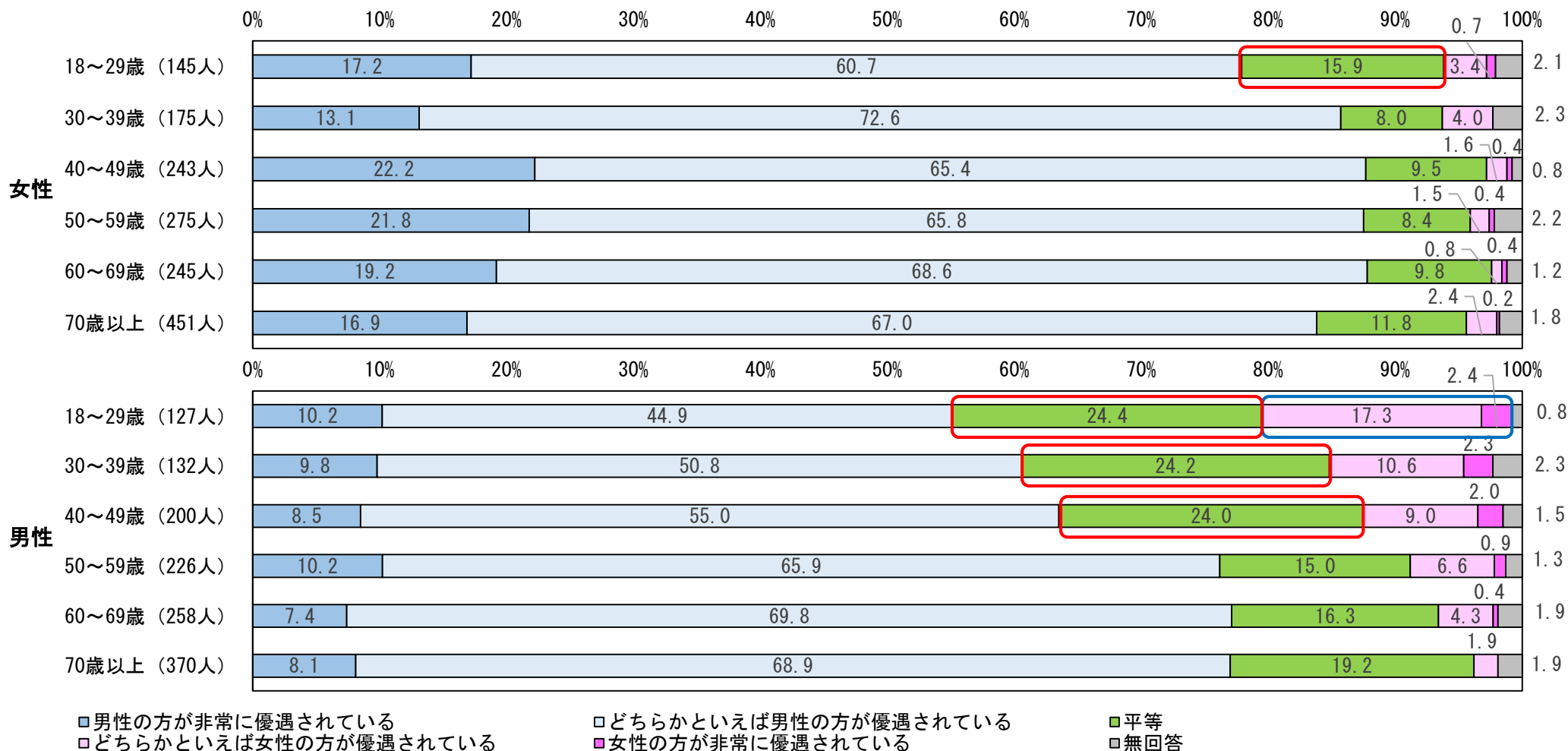


- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- 分からない

社会全体における男女の地位の平等感（問2）

- ・ 「平等になっている」と思うと回答した割合は、女性は20歳代以下、男性は40歳代以下で高い。
- ・ 特に18～29歳の男性で、「女性の方が優遇されている」と思うと回答した割合が高い。

【性別×年齢別（今回調査）】 ※郵送法



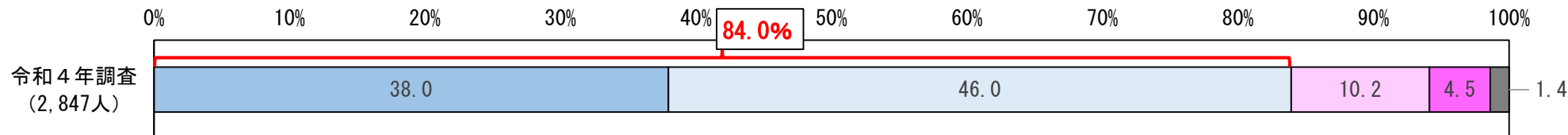
(備考) 1. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和4年11月調査)より作成。

3. 育児等に女性が費やす時間と職業面での
女性活躍との関係
(問9)

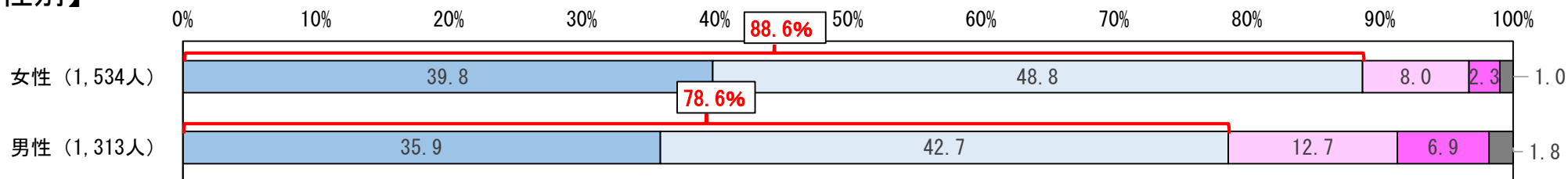
育児等に女性が費やす時間と職業面での女性活躍との関係（問9）新規問

- 「育児などに女性の方がより多くの時間を費やすことが、職業面での女性活躍が進まない要因の一つ」という意見について、「そう思う」と回答した割合は、全体で84.0%。性別では、女性は9割弱、男性は8割弱が「そう思う」と回答。
- 年齢別では、「そう思わない」と回答した割合が40歳代で2割となっており、他の年代より割合が高い。

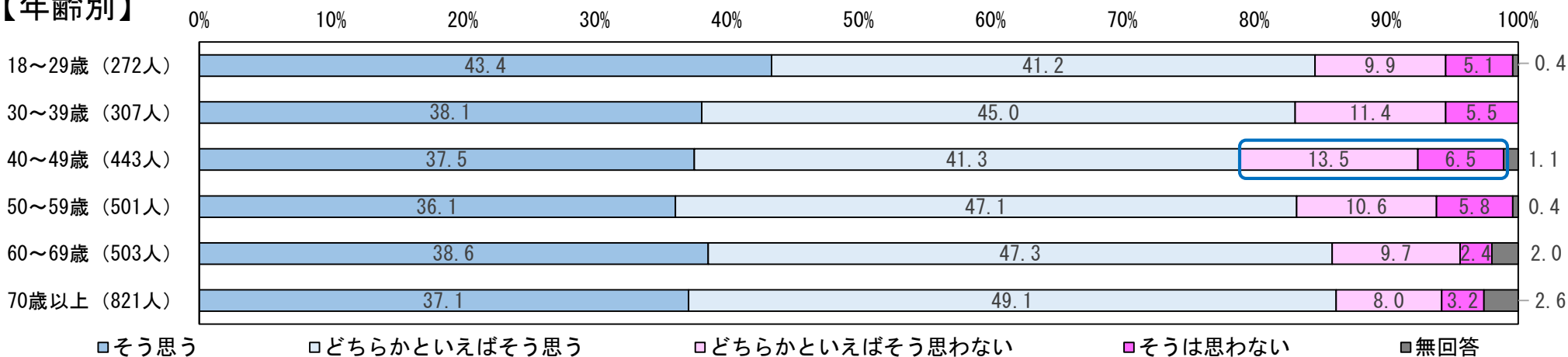
【全体】



【性別】



【年齢別】

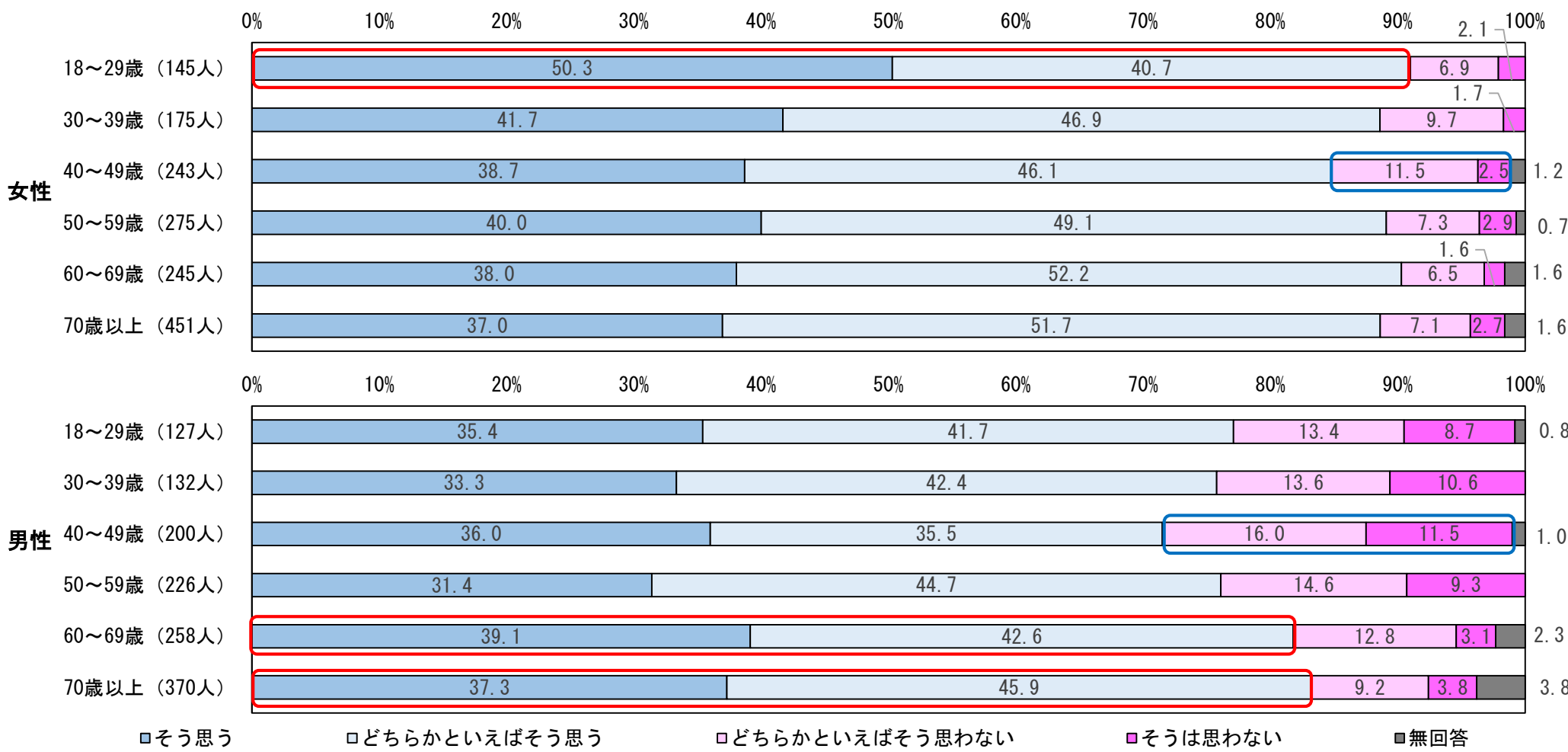


□そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そうは思わない ■無回答

育児等に女性が費やす時間と職業面での女性活躍との関係（問9） 新規問

- ・ 女性では、「そう思う」と回答した割合が、全ての年代で8割を超え、特に18～29歳では9割を超える。
- ・ 男性では、「そう思う」と回答した割合が、全ての年代で7割を超え、60歳代以上では8割を超える。
- ・ 「そう思わない」と回答した割合は、男女ともに40歳代で、他の年代よりも高い。

【性別×年齢別】

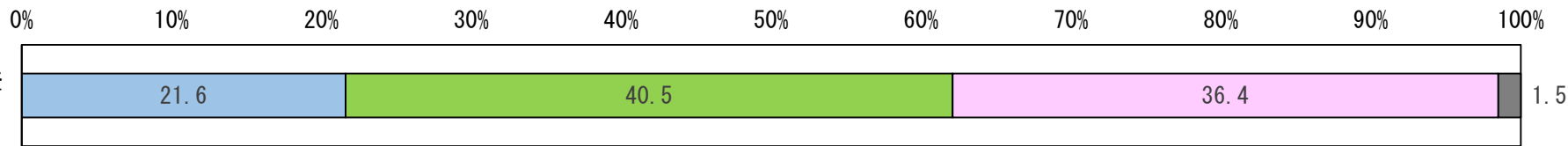


(備考) 1. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和4年11月調査)より作成。

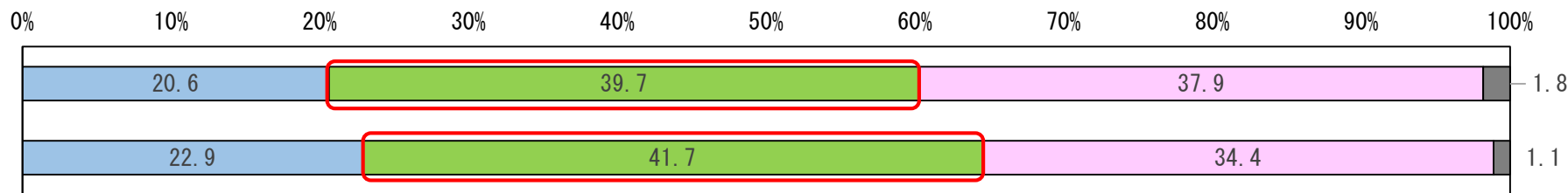
4. 育児等に費やす時間の男女差を踏まえ、
職業面での女性活躍推進に必要な支援
(問10)

- 「育児等に費やす時間を男女間でバランスのとれたものとし、職業生活における女性活躍を更に推進するために必要な支援」として最も回答割合が高いのは、男女ともに「仕事との両立を支援するための施策の整備」。
- 年齢別にみると、50歳代以上では「育児や介護をサポートする設備やサービスの整備」、40歳代以下では「育児などに用いることができる時間を増やすための勤務環境の整備」の支持が高い傾向。

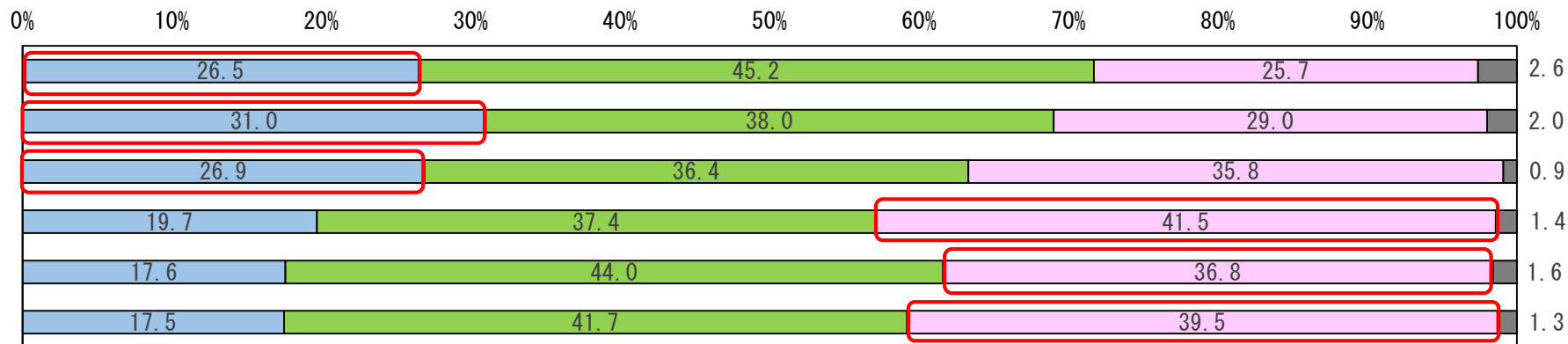
【全体】



【性別】



【年齢別】



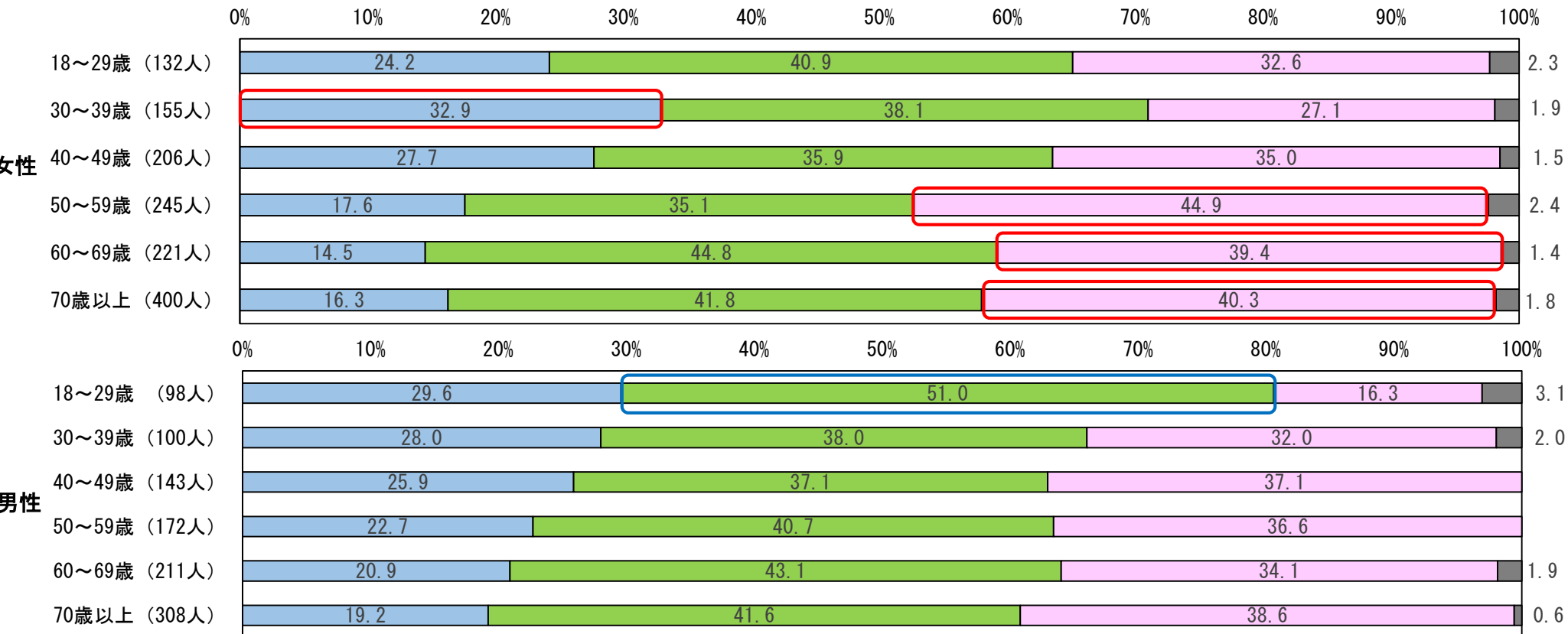
- 長時間労働慣行の是正やテレワークの推進など、育児や介護、家事などに用いることができる時間を増やすための勤務環境の整備
- 育児や介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事との両立を支援するための施策の整備
- 保育施設や介護施設の整備など、育児や介護をサポートする設備やサービスの整備
- 無回答

(備考) 1. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和4年11月調査)より作成。
 2. 本質問(問10)は、前問(問9)で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人への更問。

育児等に費やす時間の男女差を踏まえ、職業面での女性活躍推進に必要な支援（問10）

- ・女性では、50歳代以上は「サポートする設備やサービスの整備」の回答割合が高い。また、30歳代では、「勤務環境の整備」の回答が、他の年代と比べて高い。
- ・男性では、18～29歳の過半数が「仕事との両立支援」を回答。また、年代が高くなるにつれて、「勤務環境の整備」の回答割合が減少。

【性別×年齢別】



■長時間労働慣行の是正やテレワークの推進など、育児や介護、家事などに用いることができる時間を増やすための勤務環境の整備
 ■育児や介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事との両立を支援するための施策の整備
 ■保育施設や介護施設の整備など、育児や介護をサポートする設備やサービスの整備
 ■無回答

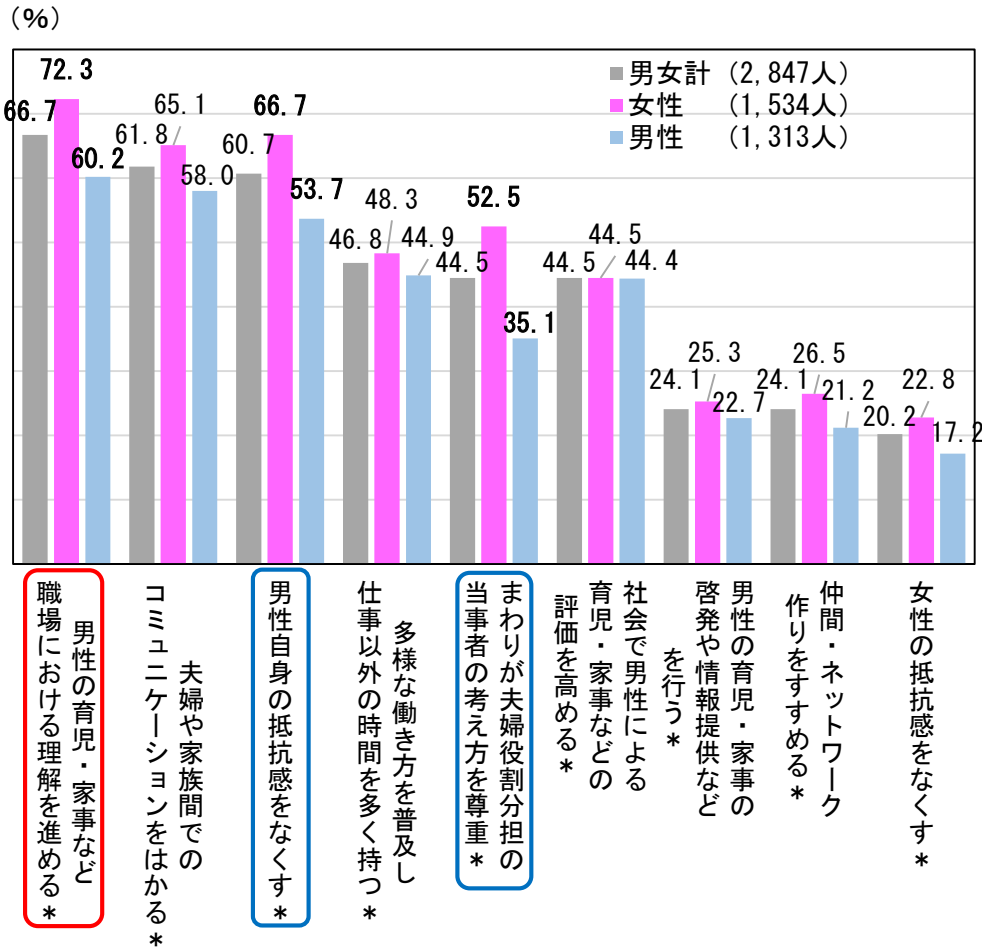
(備考) 1. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和4年11月調査)より作成。
 2. 本質問(問10)は、前問(問9)で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人への更問。

5. 男性が育児や介護、家事等に積極的に
参加するために必要なこと
(問7)

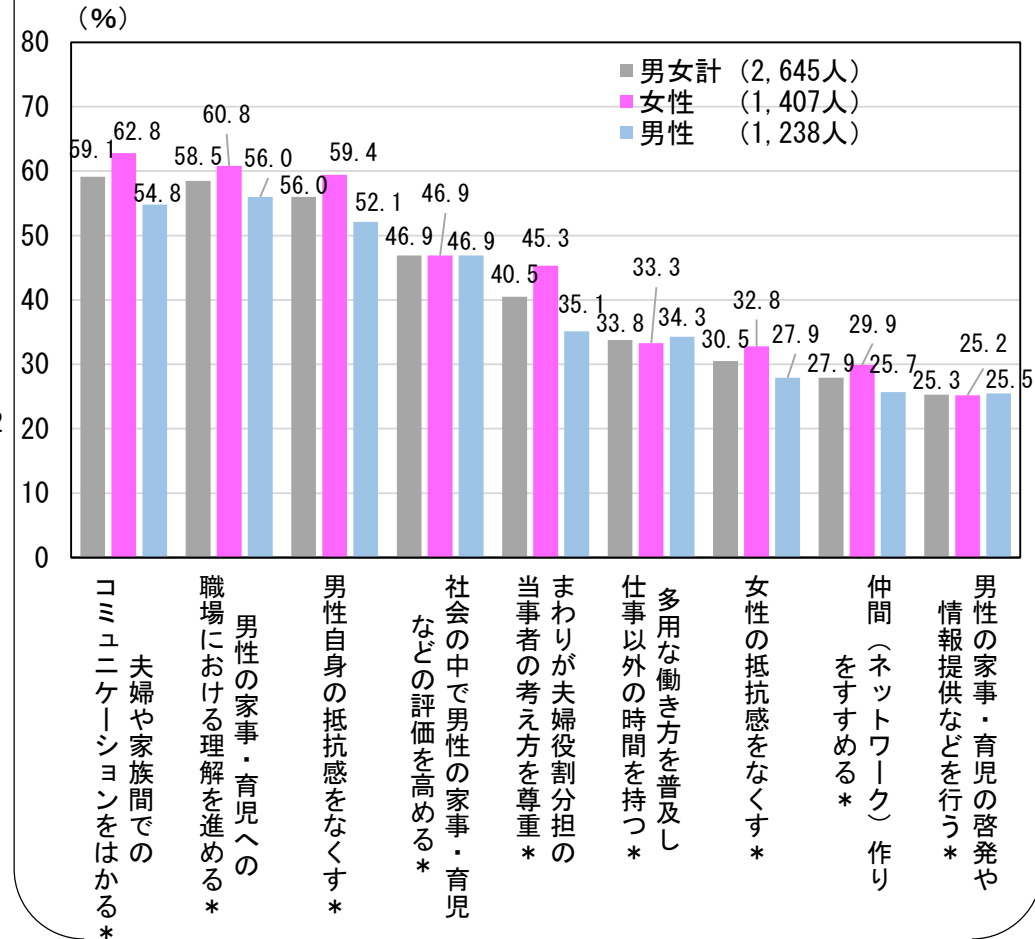
男性が育児や介護、家事等に積極的に参加するために必要なこと（問7）

- ・男女ともに最も回答が多かったのは「職場における上司や周囲の理解を進めること」。
- ・女性と男性で回答割合の差が特に大きいものとしては、「男性自身の抵抗感をなくすこと」や「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」が挙げられる。

【全体・性別（今回調査）】 ※郵送法



【参考（前回調査）】 ※個別面接聴取法



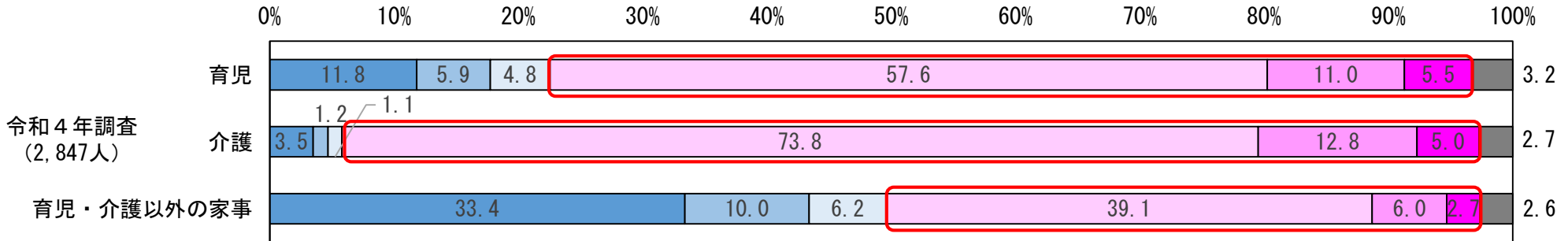
- (備考) 1. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年9月、令和4年11月調査）より作成。
 2. 今回調査から、調査方法が個別面接聴取法から郵送法に変更となったため、質問文や選択肢が同じでも、過去の調査結果との比較はできない（過去の結果は「参考値」）。
 3. 複数回答。
 4. グラフ中における*は、実際の選択肢から一部を省略して表章していることを示している。

6. 育児等に対する配偶者との役割分担（問8）

育児等に対する配偶者との役割分担（問8）

- 外部サービス（保育所、訪問介護、家事代行など）について、育児では7割以上、介護では9割以上、家事では5割弱が、利用しながら行いたいと回答。

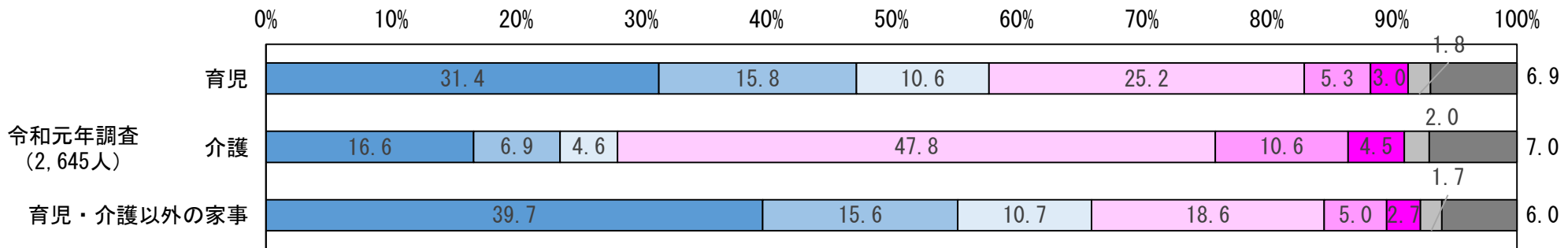
【全体（今回調査）】 ※郵送法



- 外部サービスは利用せず、自分と配偶者で半分ずつ分担
- 外部サービスは利用せず、配偶者の方が自分より多く分担
- 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分の方が配偶者より多く分担
- 無回答

- 外部サービスは利用せず、自分の方が配偶者より多く分担
- 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担
- 外部サービスを利用しながら、それ以外は配偶者の方が自分より多く分担

【参考（過去調査）】 ※個別面接聴取法



- 外部サービスは利用せず、自分と配偶者で半分ずつ分担
- 外部サービスは利用せず、配偶者の方が自分より多く分担
- 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分の方が配偶者より多く分担
- その他

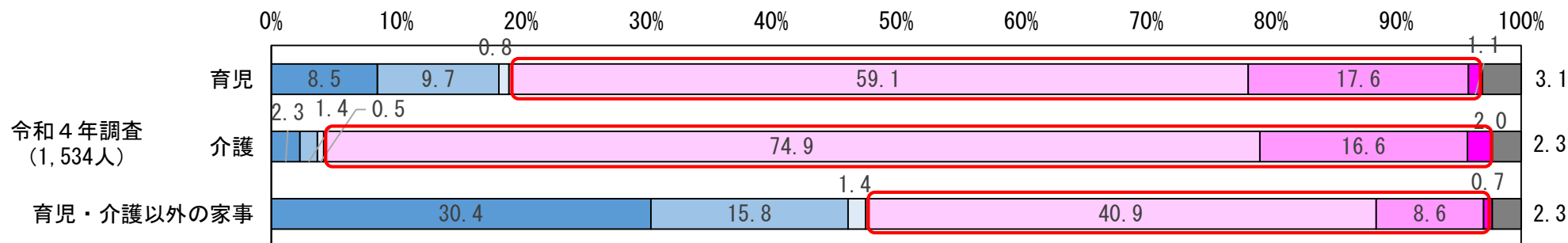
- 外部サービスは利用せず、自分の方が配偶者より多く分担
- 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担
- 外部サービスを利用しながら、それ以外は配偶者の方が自分より多く分担
- 分からない

- (備考) 1. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年9月、令和4年11月調査）より作成。
 2. 今回調査から、調査方法が個別面接聴取法から郵送法に変更となったため、質問文や選択肢が同じでも、過去の調査結果との比較はできない（過去の結果は「参考値」）。
 3. 令和4年11月調査と令和元年9月調査では、選択肢の記載ぶりが異なる。

育児等に対する配偶者との役割分担（問8）

- ・ 育児、介護、家事のそれぞれについて、外部サービスを利用しながら行いたいと回答した割合は、男女ともに同じ傾向だが、女性の方が回答割合は高い。
- ・ 「配偶者と半分ずつ分担」と回答した割合は、男性の方が高いが、「自分の方が配偶者より多く分担」と回答した割合は、女性の方が高い。

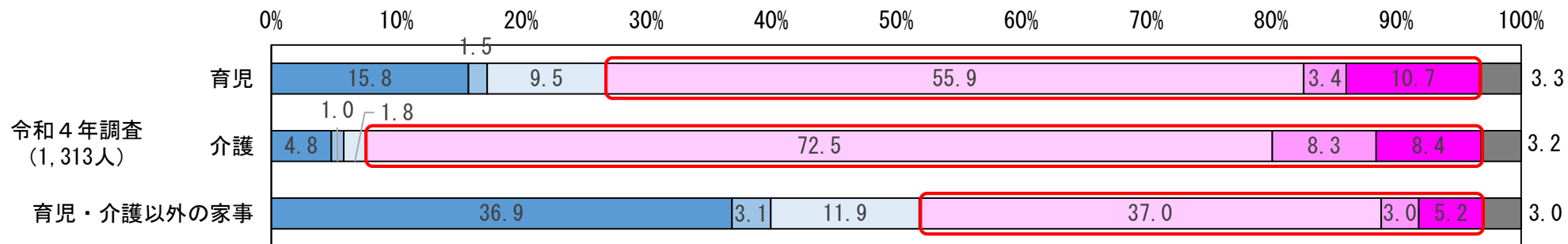
【女性（今回調査）】 ※郵送法



- 外部サービスは利用せず、自分と配偶者で半分ずつ分担
- 外部サービスは利用せず、配偶者の方が自分より多く分担
- 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分の方が配偶者より多く分担
- 無回答

- 外部サービスは利用せず、自分の方が配偶者より多く分担
- 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担
- 外部サービスを利用しながら、それ以外は配偶者の方が自分より多く分担

【男性（今回調査）】 ※郵送法

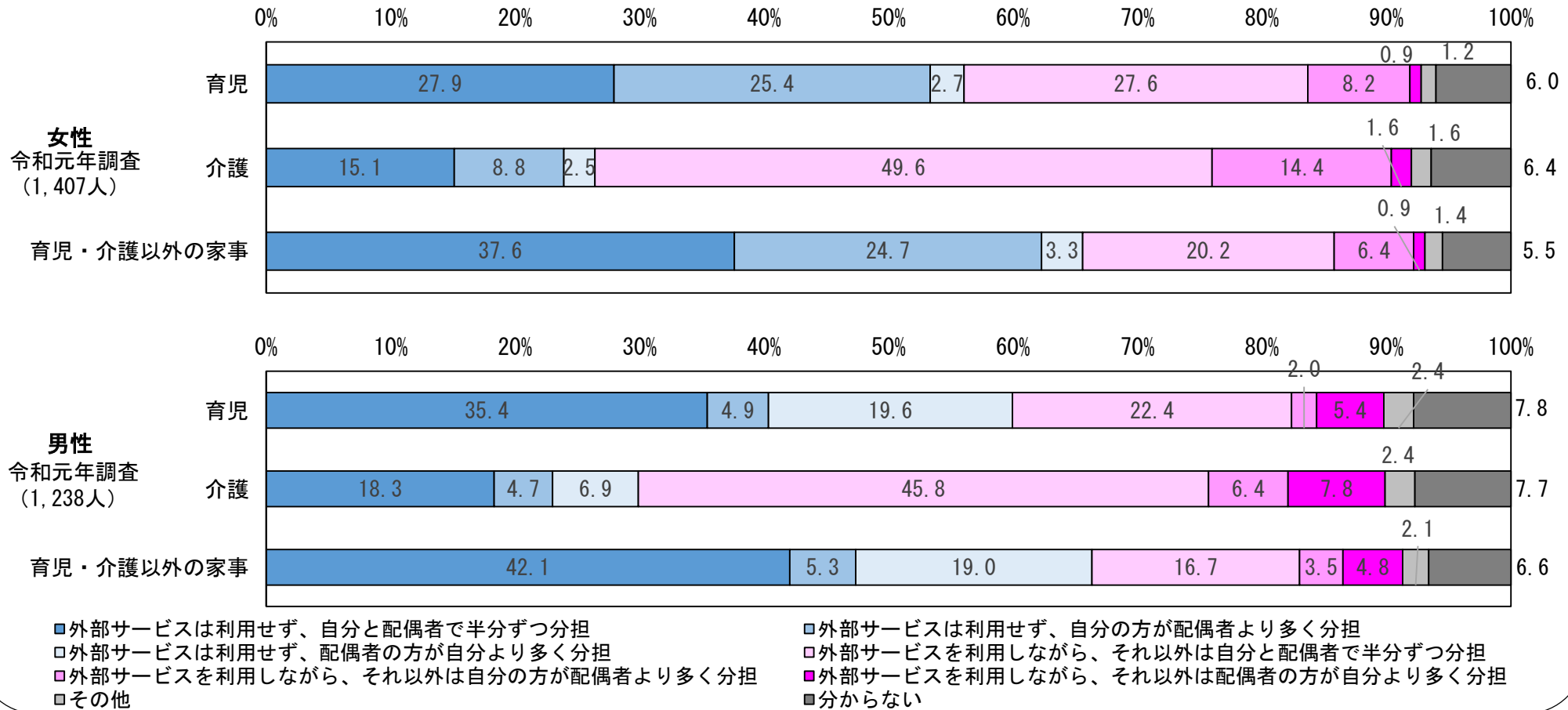


- 外部サービスは利用せず、自分と配偶者で半分ずつ分担
- 外部サービスは利用せず、配偶者の方が自分より多く分担
- 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分の方が配偶者より多く分担
- 無回答

- 外部サービスは利用せず、自分の方が配偶者より多く分担
- 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担
- 外部サービスを利用しながら、それ以外は配偶者の方が自分より多く分担

育児等に対する配偶者との役割分担（問8）

【参考（過去調査）】※個別面接聴取法



(参考)

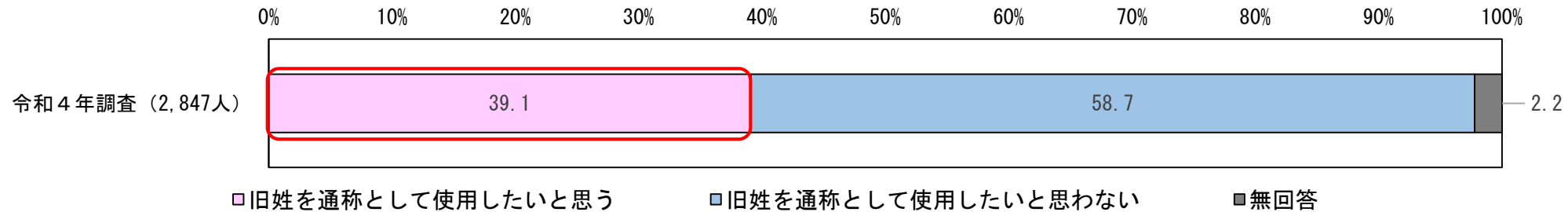
旧姓の通称使用の希望について (問12)

旧姓の通称使用の希望（問12）

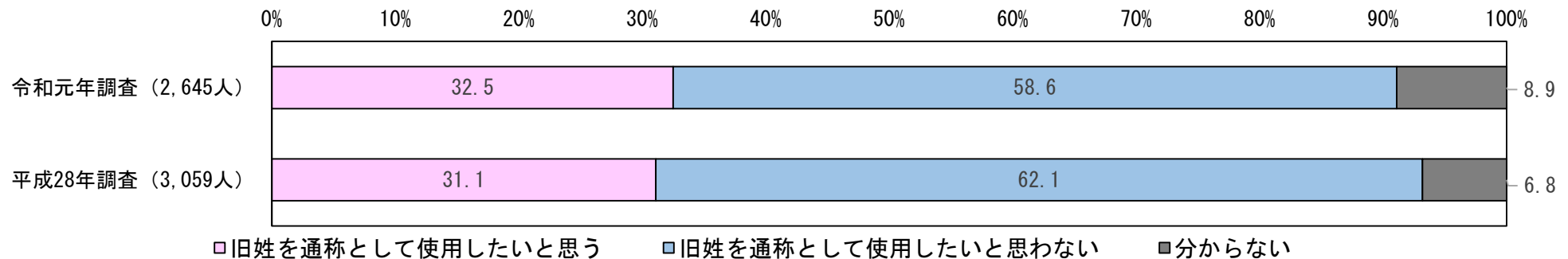
・旧姓の通称使用の希望割合は全体で39.1%。

（※）仮に結婚して戸籍上の名字・姓が変わったとした場合、旧姓の通称使用の希望があるかを回答者に尋ねている。

【全体（今回調査）】 ※郵送法



【参考（過去調査）】 ※個別面接聴取法



（備考） 1. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（平成28年9月、令和元年9月、令和4年11月調査）より作成。

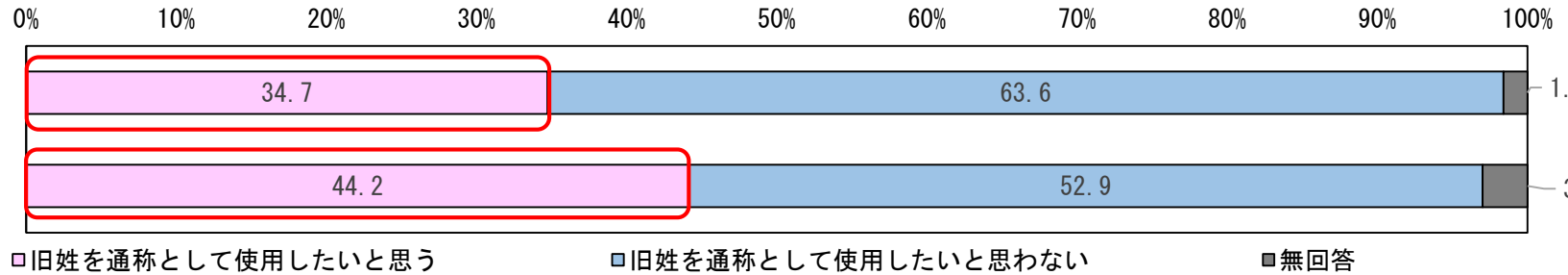
2. 今回調査から、調査方法が個別面接聴取法から郵送法に変更となったため、質問文や選択肢が同じでも、過去の調査結果との比較はできない（過去の結果は「参考値」）。

旧姓の通称使用の希望（問12）

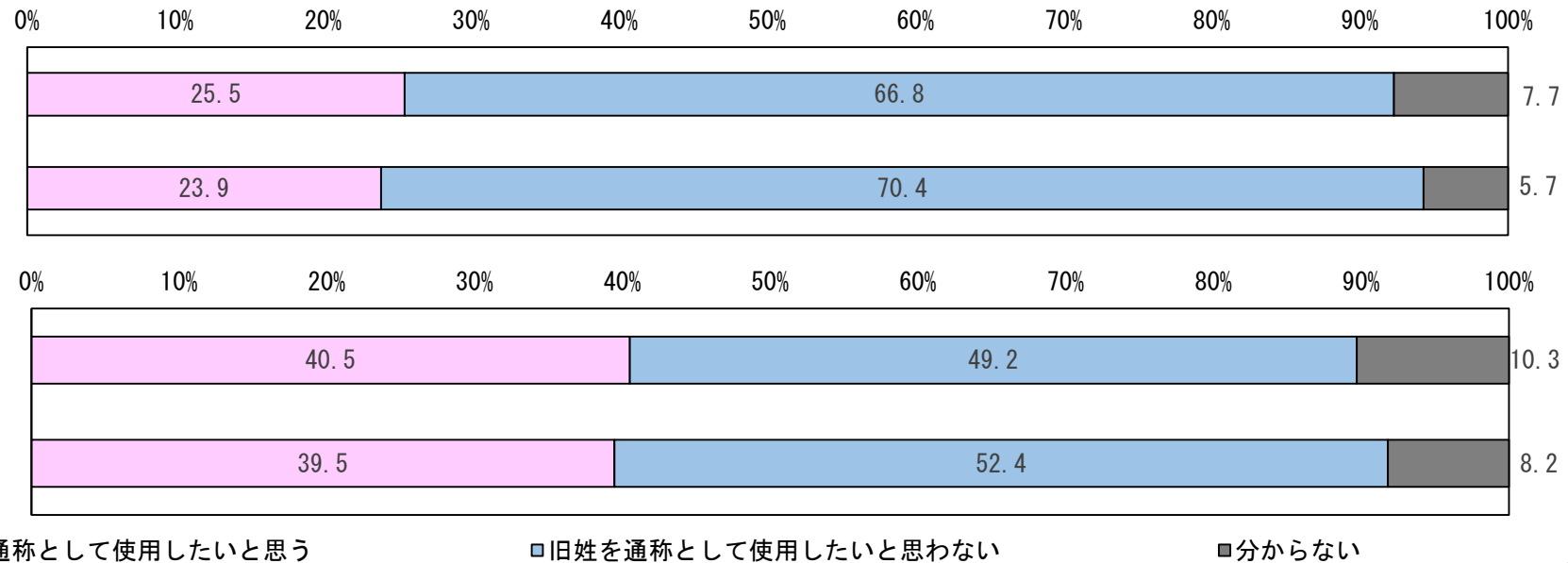
・旧姓の通称使用の希望割合は、女性が34.7%、男性が44.2%となっており、男性の方が、旧姓の通称使用を希望する割合が高い。

（※）仮に結婚して戸籍上の名字・姓が変わったとした場合、旧姓の通称使用の希望があるかを回答者に尋ねている。

【性別（今回調査）】※郵送法



【参考（過去調査）】※個別面接聴取法

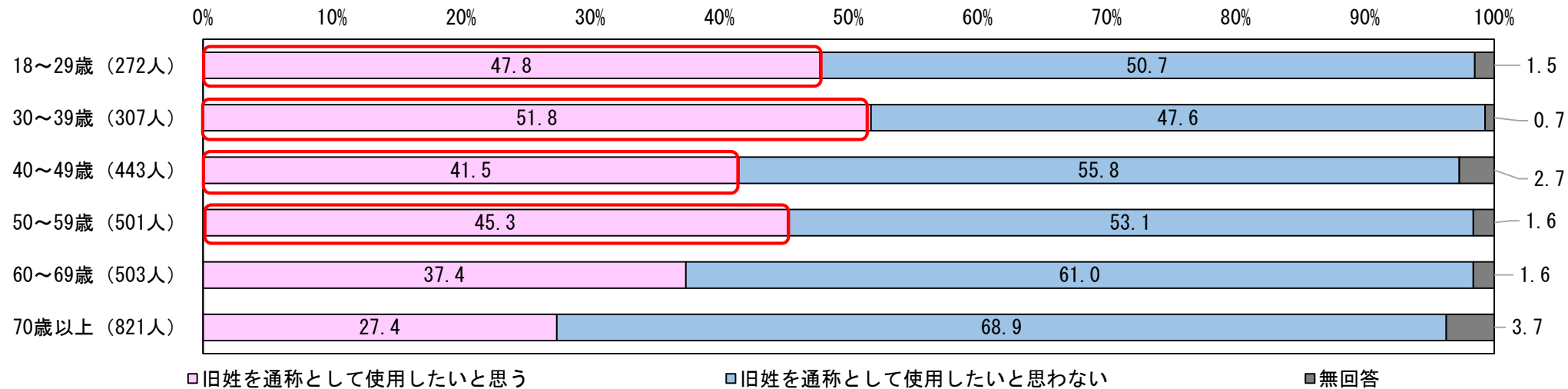


（備考） 1. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（平成28年9月、令和元年9月、令和4年11月調査）より作成。
 2. 今回調査から、調査方法が個別面接聴取法から郵送法に変更となったため、質問文や選択肢が同じでも、過去の調査結果との比較はできない（過去の結果は「参考値」）。

旧姓の通称使用の希望（問12）

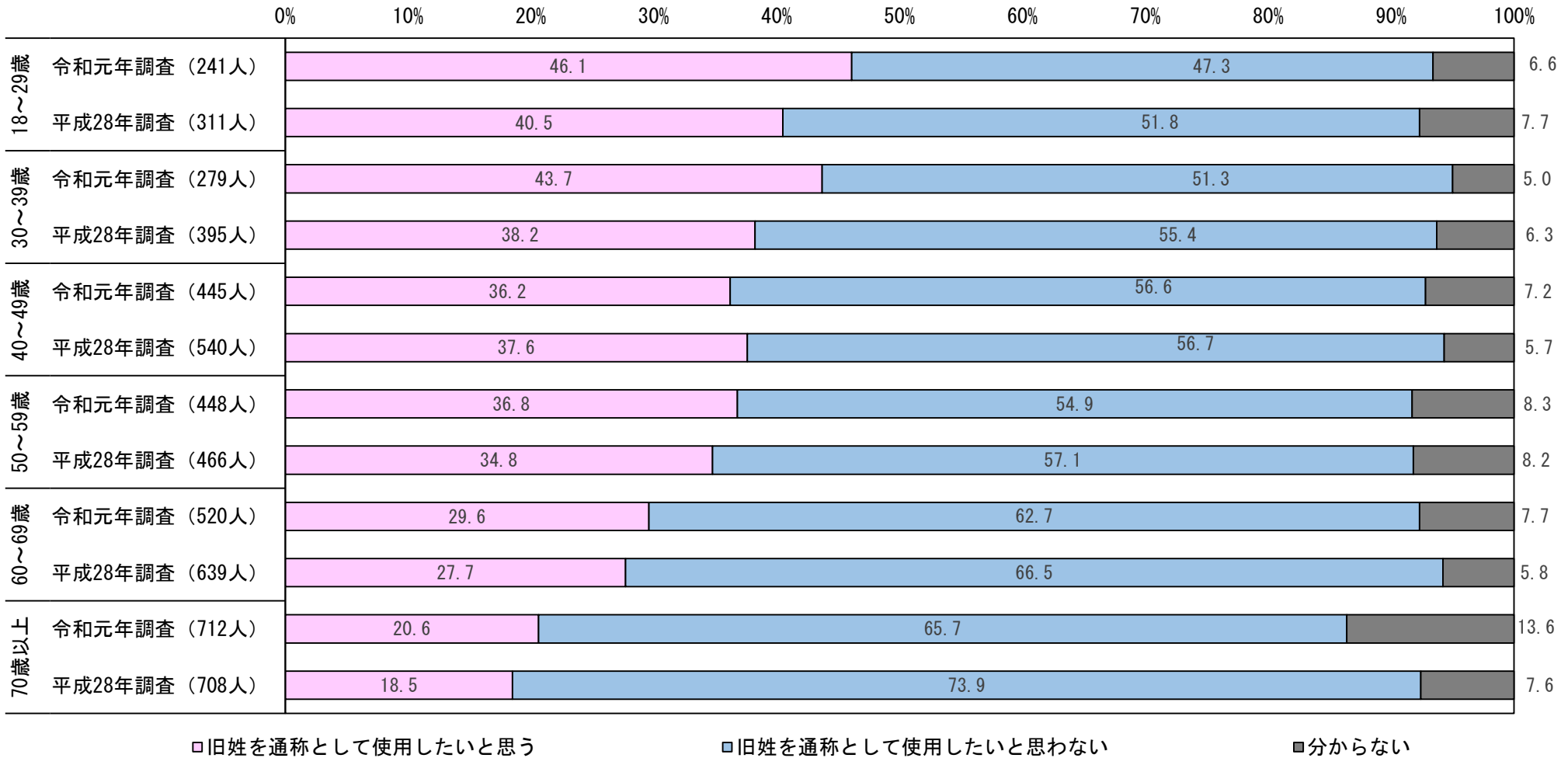
- ・年齢別にみると、旧姓の通称使用の希望割合は、50歳代以下で4割以上。30歳代は最も希望割合が高く、5割を超える。

【年齢別（今回調査）】※郵送法



旧姓の通称使用の希望（問12）

【参考（過去調査）】 ※個別面接聴取法



旧姓使用の希望（問12）

- ・旧姓の通称使用の希望割合は、女性では30歳代が高く、5割を超える。
- ・男性は、70歳以上を除く全ての年代で、旧姓の通称使用の希望割合は4割を超える。また、30歳代を除く全ての年代で、男性の希望割合は女性を上回る。

【性別×年齢別（今回調査）】 ※郵送法

